



沖縄で、台湾や東南アジアの
めずらしい果樹を育てる
合同会社かがやきは、沖縄の健康を担う
「健康農園」へと変わろうとしていた。



健康農園づくり 取り戻す、 沖縄の食文化を

シリーズ「農と生きる障害者」4
合同会社かがやき

自然には勝てません

「本当はいまごろ、ナツメの収穫なんです。去年の台風で全部やられてしまっ……」。そう話すのは、合同会社かがやきの代表、赤嶺秀夫さん。
ここは、沖縄県中頭郡中城村。まだまだ山に囲まれて、ぼっかりと空いた広い空間の斜面に、背の低い木が並んでいる。

朝のラジオ体操がはじまった。里山にラジオの音が響く。ときどき、轟音を響かせて頭の上を飛行機が飛んでいく。数秒間、すべての音がかき消された。そして、何もなかったように体操は続く。

「ナツメっていうと、漢方を使う小さな実っていう印象だと思っんですけど、うちの一般的なナツメの三倍以上の大きさで、生で食べます。りんご

とか梨のような味がして、とてもおいしいんです。台湾の方がよく食べる果物で、在日の台湾の人からたくさん注文が入ったり。一度食べた人は、リピーターになって注文してくれるんです。今年注文してくれた方には、ひたすら謝りました。自然には勝てません」。ナツメの花芽は、九月末ころから出はじめる。ちょうど芽が出たときに、巨大な台風が来て、すべて枯れた。

駐車場経営から農園経営

赤嶺さんは、那覇で駐車場を経営していた。ご本人曰く、いまも「細々と」続けている。

地方都市に出張に行くと、駅前の土地が次々とコインパーキングに変

編集部=文
text by Kotonone
仲程長治=写真
photograph by Choji Nakahodo